

兵庫県芦屋市

月若遺跡発掘調査報告書

第89地点

—都市計画道路山手幹線街路事業に伴う発掘調査Ⅶ—

2008

芦 屋 市

芦屋市教育委員会

兵庫県芦屋市

月若遺跡発掘調査報告書

第 89 地点

—都市計画道路山手幹線街路事業に伴う発掘調査Ⅶ—

2008

芦 屋 市

芦屋市教育委員会

序

平成 12 年度から開始されました兵庫県の震災復興フェニックス計画の一環である都市計画道路山手幹線街路事業も終盤を迎えつつあります。

兵庫県教育委員会のご指導を得て、その事前調査を神戸市教育委員会へ委託してまいりました。予定工区では、次々と埋蔵文化財がみつきり、多くの調査成果が上がりました。長期に渡る大規模調査を実施していただいた神戸市教育委員会に感謝いたします。

本書はその最終年度に近い平成 18 年度実施の発掘調査の報告書です。調査されました第 89 地点は芦屋川右岸域の遺跡群を考える時、参考になるべきことが多く、遺跡の端をある程度確認することができました。

ご協力いただきました関係者各位に感謝申し上げます。

平成 20 年 3 月 31 日

芦屋市教育長 藤 原 周 三

例 言

1. 本書は芦屋市月若町3番-25で実施した、埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は都市計画道路山手幹線街路事業に伴うもので、神戸市が芦屋市との間に委託に関する協定書を締結して実施したものである。

発掘調査にあたっては芦屋市教育委員会を調査主体とし、神戸市教育委員会を調査機関とした。現地調査に関しては、財団法人神戸市体育協会が神戸市から委託を受けて実施した。発掘調査組織については、本文（第1章第1節3）に記した。

発掘調査は平成18年5月30日～平成18年6月21日までの間実施した。

発掘調査面積は120㎡である。
3. 遺物写真は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 牛嶋 茂氏の指導を得て、杉本和樹氏が撮影した。
4. 本書で使用した方位・座標は平面直角座標系第Ⅴ系（日本測地系）である。標高は、東京湾平均海水準（T. P. ）で表示している。また、図中で使用した方位は、座標北を示している。
5. 本書に掲載した遺跡分布図には、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「西宮」を使用した。
6. 発掘調査に伴う遺構・遺物の図面、写真および出土遺物は、報告書刊行後、芦屋市教育委員会に移管する。
7. 現地調査は、兵庫県教育委員会ならびに芦屋市教育委員会の指導・助言を得て実施した。また、芦屋市建設部（現・都市環境部）街路課の協力を得た。
8. 本書の作成は、神戸市教育委員会文化財課 山本雅和の指導の下、調査担当者が行った。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯と経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 発掘調査の経過	3
(3) 発掘調査組織	4
第2節 遺跡の立地と歴史的環境	5
(1) 遺跡の地理的環境	5
(2) 歴史的環境	5
第2章 発掘調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
(1) 調査の方法	9
(2) 基本土層	9
第2節 第2遺構面の調査	10
第3節 第1遺構面の遺構と遺物	11
(1) 溝	11
(2) 河道	11
(3) 遺構に伴わない遺物	12
第4節 まとめ	14
第5節 都市計画道路山手幹線街路事業に伴う既往発掘調査	14

挿図目次

fig. 1 調査地の位置	1
fig. 2 関連調査地点位置図	2
fig. 3 周辺の遺跡	6
fig. 4 調査区西壁土層断面図	9
fig. 5 弥生土器	10
fig. 6 第2遺構面平面図	10
fig. 7 第1遺構面平面図	11
fig. 8 SD101平面・断面図	12
fig. 9 遺物包含層出土遺物	13
fig. 10 山手幹線街路事業関連既往調査地点	16

挿図写真目次

挿図写真1	調査作業	3
挿図写真2	SD101土層断面	12
挿図写真3	遺物包含層出土遺物	13

写真図版目次

写真図版1	第2遺構面全景（東から）
	第2遺構面全景（南東から）
写真図版2	第1遺構面全景（南東から）
	第1遺構面全景（東から）

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と経過

(1) 調査に至る経緯

都市計画道路山手幹線街路事業は、兵庫県の尼崎市から神戸市を結び、阪神間の4市を東西に貫く全長約30kmの幹線道路として計画されたもので、そのうち芦屋市翠ヶ丘町から三条南町に至る2.3kmの区間が芦屋市域にあたる。この事業は、平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震によって、国道2号線・阪神高速道路などの主要交通路が麻痺状態となり避難・救助・救援物資の輸送に大きな支障をきたしたことに起因している。そのため、災害時の交通路の確保の必要性が重視され、震災復興事業の1つとして位置づけられ、早急な整備が進められることとなったものである。

芦屋市域の山手幹線街路事業はJR芦屋駅前など、一部区間はすでに完了していたが、そのほとんどの区間においては未着手のままであった。さらに、未着手区間の約半分には月若遺跡や寺田遺跡などの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在していた。平成9年度に芦屋市教育委員会によって行われた試掘調査では、埋蔵文化財の確認された地域は広範囲に及ぶことが明らかになっている。

芦屋市教育委員会では、山手幹線街路事業以外にも民間開発や復興関連事業に伴う調査が多数控えており、現状では山手幹線街路事業に対応できる体制が整っていなかった。そこで芦屋市および芦屋市教育委員会は、山手幹線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の取

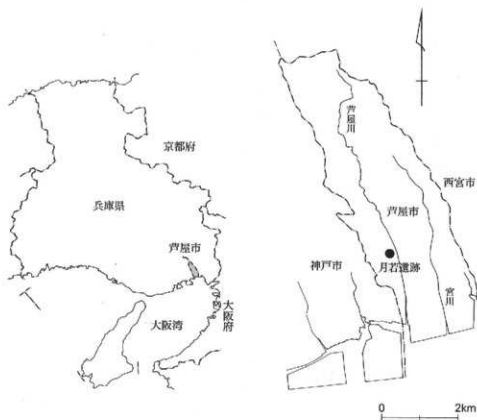


fig.1 調査地の位置

り扱いについて兵庫県教育委員会と協議し、神戸市に埋蔵文化財発掘調査の支援を要請することとなったのである。

神戸市では山手幹線街路事業の重要性や状況を鑑み、平成12年度に兵庫県教育委員会を立会人として、山手幹線街路事業を対象に「埋蔵文化財の発掘調査業務に関する協定書」を神戸市・芦屋市・芦屋市教育委員会の間で締結した。同年、その協定書に基づき神戸市教育委員会が発掘調査を実施することとなった。そして、調査開始後7年次目にあたる平成18年度は、月若遺跡第89地点の発掘調査を実施し、今回が現地での発掘調査の最終実施年度にあたる。

(2) 発掘調査の経過

第89地点

月若遺跡第89地点の調査は、5月30日から現場事務所の設置作業に取り掛かり、調査用具の搬入等の準備を行った。6月5日からは調査区に防塵シートなどの仮囲いを設置して調査を開始する。6月7日には調査区の西端から重機掘削を開始する。盛土が厚く堆積している。重機掘削と並行して遺物包含層の人力掘削を開始する。

第1遺構面の包含層からは古墳時代から中世までの遺物が出土している。検出した遺構は溝と河道である。6月13日に全景写真撮影を実施し、翌日にクレーンによる空中写真撮影を行い、平板測量等の記録作業を行った。

6月16日からは、第2遺構面に向けて遺物包含層の掘削を開始した。第2遺構面は弥生時代後期の遺構面で、東側に崖状に落ちる谷地形の肩部を確認した。落ち際の遺物包含層から少量の弥生時代後期の土器が出土している。掘削終了後、全景写真撮影を実施し、記録作業を行った。

6月19日より調査区の埋め戻しを開始する。翌日、埋め戻し終了。防塵シートなどの撤収。6月21日、調査資材・現場事務所の撤収を行い、調査を終了する。

整理作業

出土遺物の整理は神戸市埋蔵文化財センターで実施した。平成18・19年度で水洗作業、ネーミング作業、復元作業、遺物実測、遺物写真撮影、製図、原稿作成などを実施し、報告書を刊行する。



挿図写真1 調査作業

(3) 発掘調査組織

発掘調査は、これまでと同様に、芦屋市から神戸市が受託し、財団法人神戸市体育協会が神戸市から委託されて現地調査を実施した。発掘調査組織は下記のとおりである。

平成 18 年度

神戸市文化財保護審議会委員 史跡・考古担当

檀上 重光 前神戸女子短期大学教授
工楽 善通 大阪府立狭山池博物館館長
和田 晴吾 立命館大学文学部教授

芦屋市教育委員会

教育長 藤原 周三
社会教育部長 松本 博
生涯学習課長 川崎 正年
生涯学習課長補佐 長谷川易司
主査(学芸員) 森岡 秀人
係員 春木 和子
係員(学芸員) 竹村 忠洋
嘱託(学芸員) 坂田 典彦
嘱託(学芸員) 白谷 朋世

神戸市教育委員会

教育長 小川 雄三
社会教育部長 大谷 幸正
教育委員会参事 柏木 一孝
(文化財課長事務取扱)
社会教育部主幹 丸山 潔
(埋蔵文化財指導係長事務取扱)
埋蔵文化財調査係長 丹治 康明
文化財課主査 安田 滋
文化財課主査(兼務) 山本 雅和
事務担当学芸員 前田 佳久
阿部 敬生

財団法人神戸市体育協会

会長 家治川 豊
副会長 水田 裕次
(専務理事事務取扱)
常務理事 碩 弘四郎
総務課長 横関 勇
総務課主査 山本 雅和
調査担当学芸員 齋木 巖

平成 19 年度

神戸市文化財保護審議会委員 史跡・考古担当

檀上 重光 前神戸女子短期大学教授(～7月14日)
工楽 善通 大阪府立狭山池博物館館長
和田 晴吾 立命館大学文学部教授

芦屋市教育委員会

教育長 藤原 周三
社会教育部長 松本 博
生涯学習課長 川崎 正年
生涯学習課長補佐 大橋 伸一
主査(学芸員) 森岡 秀人
係員 春木 和子
係員(学芸員) 竹村 忠洋
嘱託(学芸員) 坂田 典彦
嘱託(学芸員) 白谷 朋世
嘱託(学芸員) 守田めぐみ

神戸市教育委員会

教育長 小川 雄三
社会教育部長 黒住 章久
教育委員会参事 柏木 一孝
(文化財課長事務取扱)
社会教育部主幹 丸山 潔
(埋蔵文化財指導係長事務取扱)
埋蔵文化財調査係長 千種 浩
文化財課主査 安田 滋
文化財課主査(兼務) 山本 雅和
事務担当学芸員 阿部 敬生
中谷 正
整理担当学芸員 黒田 恭正

財団法人神戸市体育協会

会長 表 孟宏
副会長 水田 裕次
(専務理事事務取扱)
常務理事 碩 弘四郎
総務課長 横関 勇
総務課主査 山本 雅和
整理担当学芸員 齋木 巖

第2節 遺跡の立地と歴史的環境

(1) 遺跡の地理的環境

芦屋市は兵庫県南東部に位置し、東西約2.5km、南北約8.8kmの南北に長い市域を有する。面積は18.57km²で、東側は西宮市、西側は神戸市と接し、南側には大阪湾を臨む。

月若遺跡は芦屋市でも西部に位置する芦屋市月若町、西芦屋町を中心に広がり、阪急神戸線と南側のJR神戸線に挟まれた閑静な住宅地に所在する。

地形的には芦屋市の北側には六甲山地、南側には大阪湾が広がり、六甲山地から大阪湾に流入する中小河川がもたらした土砂堆積によって形成された狭少な臨海平野部が形成されている。月若遺跡はそんな中小河川のひとつである芦屋川の右岸域の標高25～32mの傾斜地形の変換部に位置する複合遺跡である。芦屋川の両岸には芦屋川・旧東川により形成された扇状地が広がり、右岸の扇状地は旧東川によって侵食された谷により東西に分割され、その東側を芦屋川扇状地、西側を旧東川扇状地と呼称している。月若遺跡は芦屋川扇状地の東半部に存在している。遺跡は東西約250m、南北約350m、総面積約58,000m²の範囲に広がるものと推定されている。

(2) 歴史的環境

旧石器時代

旧石器時代では丘陵上に立地する朝日ヶ丘・打出小槌・岩ヶ平等の遺跡で国府型ナイフ形石器が出土している。しかしながら、遺構は確認されていない。

縄文時代

縄文時代は早期には山芦屋遺跡で高山寺式の押型文土器や石器が出土している。前期には山芦屋遺跡が継続して営まれ、朝日ヶ丘遺跡や栗平遺跡でも土器が出土している。月若遺跡では早期末から前期初頭の土坑が検出されている。中期末から後期には山芦屋遺跡で堅穴住居が見つかった。後期に入ると遺跡は増加し、森南町遺跡では土器が、沖積低地部に存在する本庄町遺跡では貯蔵穴群が検出されている。寺田遺跡でも土器が出土しており、晩期の遺構・遺物も見つかった。その他の晩期の遺跡では、六条遺跡・本山遺跡・森北町遺跡・北青木遺跡などで土器が出土しており、宮川左岸の若宮遺跡では遺構に伴って突帯文土器が出土している。

弥生時代

弥生時代では、近畿地方最古段階の土器と木製品を出土した本山遺跡が成立し、後期まで継続して営まれる。前期中頃には北青木遺跡が成立し、前期後半には若宮遺跡・寺田遺跡・栗平遺跡・打出小槌遺跡など遺跡の数が増加する。中期に入ると、前半では若宮遺跡で堅穴住居が、寺田遺跡で土坑が検出されている。後半では月若遺跡・寺田遺跡・芦屋廃寺遺跡で遺構や遺物が検出され、高地性集落として知られる会下山遺跡・城山遺跡・東山遺跡が後期前半まで続いている。後期になると、月若遺跡・芦屋廃寺遺跡・打出小槌遺跡などで集落が営まれ、後期後半には遺跡の数が一層増加する。月若遺跡では堅穴住居を初め、多くの遺構や遺物が出土している。他に三条岡山遺跡・三条九ノ坪遺跡・冠遺跡などが知られる。深江北町遺跡では円形周溝墓が築かれる。森北町遺跡では前漢鏡が出土している。

またこの地域では多くの銅鐸が出土しており、平野部から出土した堂ノ上銅鐸・本山銅鐸・北青木銅鐸や丘陵部から出土している森銅鐸・生駒銅鐸などが知られる。

古墳時代

古墳時代前期には、弥生時代終末から継続して営まれる遺跡が多い。月若遺跡では前期



- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|--------------|
| 1. 月若遺跡 | 12. 打出岸遺跡 | 23. 冠遺跡 | 34. 森南町遺跡 |
| 2. 寺田遺跡 | 13. 大原遺跡 | 24. 西山町遺跡 | 35. 本庄町遺跡 |
| 3. 栗平遺跡 | 14. 船戸遺跡 | 25. 芦屋庵寺遺跡 | 36. 栗山遺跡 |
| 4. 堂ノ上遺跡 | 15. 八十塚古墳群 | 26. 三条九ノ坪遺跡 | 37. 森銅鐸出土地 |
| 5. 堂ノ上銅鐸出土地 | 16. 朝日ヶ丘遺跡 | 27. 三条岡山遺跡 | 38. 生駒銅鐸出土地 |
| 6. 阿保親王塚古墳 | 17. 藤ヶ谷遺跡 | 28. 前田遺跡 | 39. 保久良神社遺跡 |
| 7. 金津山古墳 | 18. 城山遺跡 | 29. 清水遺跡 | 40. 本山遺跡 |
| 8. 打出小槌古墳 | 19. 鷹尾城跡 | 30. 六条遺跡 | 41. 本山銅鐸出土地 |
| 9. 打出小槌遺跡 | 20. 城山・三条古墳群 | 31. 津知遺跡 | 42. 北青木遺跡 |
| 10. 若宮遺跡 | 21. 山芦屋遺跡 | 32. 深江北町遺跡 | 43. 北青木銅鐸出土地 |
| 11. 久保遺跡 | 22. 会下山遺跡 | 33. 森北町遺跡 | |

fig. 3 周辺の遺跡 (S = 1 : 25,000)

の堅穴住居が見つかった。また、中期後半以降には滑石製模造品を中心とする祭祀遺物が多く出土し、遺跡のひとつの性格を特徴づけるものとなっている。三条岡山遺跡でも祭祀遺構が見つかった。寺田遺跡では前期の堅穴住居が検出され、中期以降には各地点で多くの遺構・遺物が見つかり、鍛冶炉をもつ住居が見つかった。後期には造り付けのカマドを持つ堅穴住居や掘立柱建物なども見つかった。業平遺跡でも後期には堅穴住居や土坑などの遺構が検出されている。

古墳では翠ヶ丘古墳群と呼称されている前期・中期古墳群が成立する。その中には三角縁神獣鏡を出土した前期の円墳である阿保親王塚古墳、中期後半では帆立貝式古墳の金津山古墳、中期末の前方後円墳である打出小槌古墳が築造されている。後期から終末期には横穴式石室を持つ八十塚古墳群や城山・三条古墳群が知られる。

奈良時代～

平安時代

白鳳期創建とされる芦屋廃寺では、金堂の基壇が発見され、大量の瓦が出土している。近年の発掘調査の成果からその様相が明らかになりつつある。寺田遺跡では奈良時代の掘立柱建物などの遺構が検出されているが、平安時代になると遺構の分布は減少傾向にある。津知遺跡では大型掘立柱建物とともに、墨書土器や円面硯などが見つかった。深江北町遺跡では、「驛」と墨書された土器や円面硯・木簡などとともに大型掘立柱建物が見つかり、葦屋驛家の関連遺跡であることが推測されている。

鎌倉時代以後

中世以降には月若遺跡・寺田遺跡・芦屋廃寺遺跡・津知遺跡・六条遺跡などで掘立柱建物などの遺構・遺物が多く検出されている。

〔参考文献〕

- 村川行弘・石野博信『会下山遺跡』芦屋市教育委員会 1964
- 村川行弘『朝日ヶ丘縄文遺跡・八十塚古墳群』芦屋市教育委員会 1966
- 芦屋市役所『新修 芦屋市史 本篇』1971
- 村川行弘・森岡秀人『三条岡山遺跡』『芦屋市文化財調査報告』第10集 芦屋市教育委員会 1979
- 関西大学考古学研究室編『兵庫県芦屋市 山芦屋遺跡S4地点現地説明会資料』芦屋市教育委員会・関西大学山芦屋遺跡調査団 1983
- 片岡章編『神戸市東灘区本庄町遺跡発掘調査報告書』財団法人古代学協会 1985
- 南博史編『寺田遺跡発掘調査報告書』財団法人古代学協会 1985
- 山下史朗編『北青木遺跡』兵庫県教育委員会 1986
- 森岡秀人 他『芦屋廃寺K地点・寺田遺跡第16地点発掘調査概要報告書』芦屋市教育委員会 1989
- 別府祥二編『本庄町遺跡』兵庫県教育委員会 1991
- 森岡秀人・白谷朋世 他『芦屋廃寺遺跡ほか発掘調査概要報告書 月若遺跡第12地点・月若遺跡第14地点』芦屋市教育委員会 1992
- 森岡秀人・和田寿寿・白谷朋世『芦屋市埋蔵文化財埋蔵地分布地図利用の手引き』芦屋市教育委員会 1993
- 浅岡俊夫・古川久雄 他『芦屋市月若遺跡 第10地点・第13地点』六甲山麓遺跡調査会 1993
- 森岡秀人・木南アツ子『芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書 月若遺跡(第19地点)』芦屋市教育委員会 1995
- 森岡秀人・木南アツ子『芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書』芦屋市教育委員会 1996
- 森正・岡本泰典『月若遺跡(第20地点)』『月若遺跡(第28地点)』『平成7年度年報』兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1996

- 森岡秀人・竹村忠洋『寺田道跡第40地点発掘調査実績報告書』芦屋市教育委員会 1997
- 神野信・吉田東明『寺田道跡(第55地点)』『平成8年度年報』兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1997
- 柏原正他『三条ノ坪遺跡(第15地点)』『平成8年度年報』兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1997
- 岡本敏行・大道和人『月若遺跡(第35・37地点)』『平成8年度年報』兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1997
- 小野田義和・日次謙一『月若遺跡(第36地点)』『平成8年度年報』兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1997
- 渡辺昇編『三条岡山遺跡 第11地点発掘調査概要』芦屋市教育委員会 1998
- 森岡秀人・竹村忠洋 他『芦屋座寺道跡 第53地点・寺田道跡 第104地点・震災復興埋蔵文化財確認調査概要報告書』芦屋市教育委員会 1999
- 重藤輝行・竹村忠洋編『寺田道跡第95地点発掘調査概要報告書』芦屋市教育委員会 1999
- 森岡秀人・竹村忠洋編『若宮道跡(第1・2地点)発掘調査報告書』芦屋市教育委員会 1999
- 篠宮正『津知道跡 第19地点』芦屋市教育委員会 2000
- 山田清朝・服部寛『寺田道跡(第117～124地点)発掘調査概要報告書』芦屋市教育委員会 2001
- 森岡秀人・坂田典彦 他『六条道跡発掘調査報告書』芦屋市教育委員会 2002
- 山本雅和・阿部敬生 他『深江北町遺跡 第9次 埋蔵文化財発掘調査報告書』神戸市教育委員会 2002
- 網干善教・米田文孝・竹村忠洋 他『八十塚古墳群の研究』芦屋市教育委員会・関西大学文学部考古学研究室 2002
- 前田佳久・平田朋子・中居さやか『寺田道跡発掘調査報告書 第127・130・132・133地点』芦屋市教育委員会 2002
- 中居さやか 他『本庄町遺跡第9次調査発掘調査報告書』神戸市教育委員会 2003
- 前田佳久 他『寺田道跡発掘調査報告書 第132・133・137・139・141・142地点』芦屋市教育委員会 2003
- 渡辺昇編『芦屋市 六条道跡』兵庫県教育委員会 2003
- 高山正久 他『兵庫県芦屋市月若遺跡(第67地点)』高山歴史学研究所 2003
- 前田佳久・石島三和 他『月若遺跡発掘調査報告書 第68・69・70地点』芦屋市教育委員会 2004
- 竹村忠洋・白谷朋世『月若遺跡(第71地点)発掘調査報告書』芦屋市教育委員会 2004
- 川上厚志・阿部功『寺田道跡発掘調査報告書 第150～153・157～160・166～168地点』芦屋市教育委員会 2005
- 黒田恭正 他『森南町道跡発掘調査報告書-第1・2次調査-』神戸市教育委員会 2005
- 安田滋・山口英正・阿部功・中村大介『粟平遺跡 第61地点 月若遺跡 第79・81地点 寺田道跡 第178・181地点 発掘調査報告書』芦屋市教育委員会 2006
- 斎木巖『月若遺跡発掘調査報告書 第83地点』芦屋市教育委員会 2007

第2章 発掘調査の成果

第1節 調査の概要

(1) 調査の方法

調査区は、芦屋川右岸の扇状地上に立地し、平成14年度に調査を行った月若遺跡第68地点・第69地点と平成16年度に調査を行った月若遺跡第79地点の間に挟まれた範囲である。掘削土の仮置き場を南側の発掘調査終了部に確保し調査を進めた。調査区は東西約12m、南北約10mで、調査面積は約120㎡である。2面の遺構面を確認することができた。

盛土・攪乱土層及び旧耕土・床土層を重機によって掘削した後に、人力による遺物包含層の掘削、遺構の精査・検出を行った。そして遺構面ごとに写真撮影・図面の作成などの記録作業を行った。クレーンによる空中写真撮影は第1遺構面のみ行った。

(2) 基本土層

調査区西端部での基本土層は、現地表面から下に、盛土層・灰褐色極細砂層（近現代耕作土）・淡灰色極細砂層（近世耕作土）・黄灰褐色極細砂～粗砂層（旧床土）・茶褐色極細砂～中砂層となり、第1遺構面の遺物包含層である暗灰褐色極細砂～中砂層がある。その下層が灰褐色極細砂～中砂層の基盤層となる。

第2遺構面の遺物包含層である暗茶褐色極細砂～粗砂層は、東に下がる崖状地形の肩部付近に堆積している。

調査区中央から東にかけては、厚い盛土層下に旧河道埋没後の近世以降の耕作土壌と阪神大水害時のものと思われる洪水砂で覆われている。

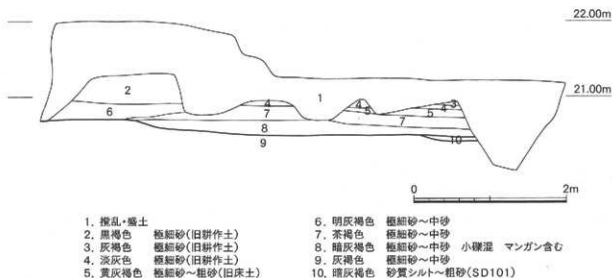


fig.4 調査区西壁土層断面図

第2節 第2遺構面の調査

第2遺構面は、東側へ傾斜する崖状地形の肩部に堆積する暗茶褐色極細砂～粗砂層の遺物包含層から弥生時代後期後半の土器が数点出土している。

遺構面は、調査区の西端部で第1遺構面と同一面となる。調査の結果、遺構は存在せず、弥生時代後期の崖状地形の肩部を検出するにとどまった。

遺物包含層から出土した遺物は弥生土器（1・2）で図化し得たのは2点のみである。1は壺の底部で、中央が凹んでいる。外面は指頭圧痕が残り、ナデで調整している。内面もナデ調整を施す。2は甕の底部で、外面をタタキで調整している。内面はハケの後にナデで仕上げている。底部に木葉圧痕が残る。

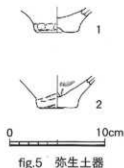


fig.5 弥生土器

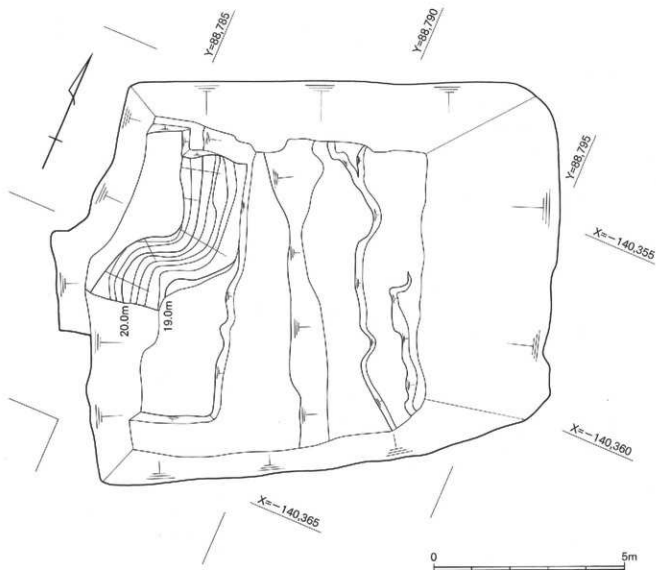


fig.6 第2遺構面平面図

第3節 第1遺構面の遺構と遺物

第1遺構面からは溝1条、河道1条を検出した。

(1) 溝

SD101 調査区の北西隅で検出した、北西から南東方向に流れる溝である。検出した溝の長さは2.7m、深さは0.1mである。溝の幅は1.5m以上であるが、削平されているため全容は不明である。出土遺物は土師器の細片が1点のみで、時期の詳細は不明である。

(2) 河道

SR101 調査区東半部の低くなった部分で検出した河道で、検出した河道の長さは8m、幅は3.5m、深さは0.97mで、北から南に向けて流れるものと考えられる。埋土は灰茶褐色砂質シルトと粗砂で、河道上面は近世以降と推測される耕作土層が水平堆積している。河道底は人頭大の礫を含む砂礫層である。河道は一段落ちて、平坦部分を有し、さらに低くなっている。北側に隣接する第69地点の調査結果から推測すると、東側にさらに深くなっていく

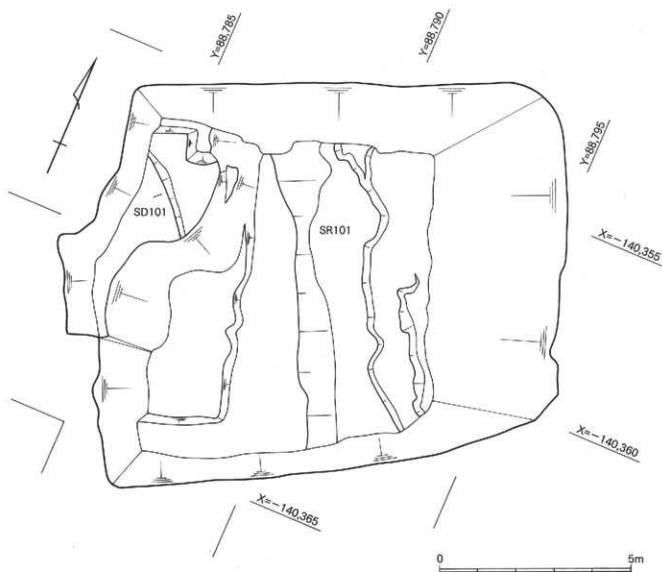


fig.7 第1遺構面平面図

ものと考えられる。

第1遺構面の時期についての詳細は不明である。遺物包含層からは中世や古墳時代の須恵器・土師器が出土しているが、摩滅したものが多く、流入したものが多く含まれると推測される。

(3) 遺構に伴わない遺物

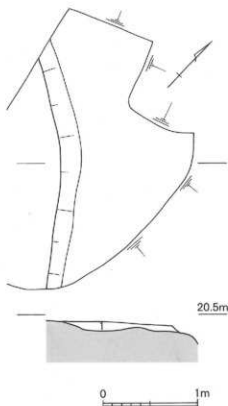
第1遺構面の遺物包含層から出土した遺物で図化し得たものは須恵器(3・4・6・7)・瓦器(5)の数点のみである。

3は須恵器の坏身で底部は欠損している。口径13.2cm、残存高2.6cmで立ち上がりは外反し、内外面ともに回転ナデを施す。古墳時代後期のものである。

4は須恵器の坏身で底部の一部と口縁部を欠損している。底径11.2cm、残存高2.9cm。貼り付けの輪高台が付く。内外面ともに回転ナデを施す。奈良時代のものである。

5は瓦器碗で、口縁部の一部が残るのみである。口径は13.0cm。外面は粗くナデを施し、口縁部は回転ナデで仕上げている。内面は回転ナデの後に横方向のミガキを施している。

6・7は須恵器の碗である。どちらも口縁部の一部のみが残存している。6の口径は15.4cm、7の口径は15.6cmである。回転ナデで仕上げている。5～7の遺物は鎌倉時代のものである。細片のため図化し得てないが、平安時代の緑釉陶器(8)が1点出土している。



1. 暗灰褐色 砂質シルト～粗砂

fig.8 SD101平面・断面図



挿図写真2 SD101土層断面

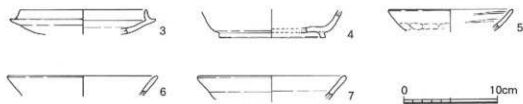
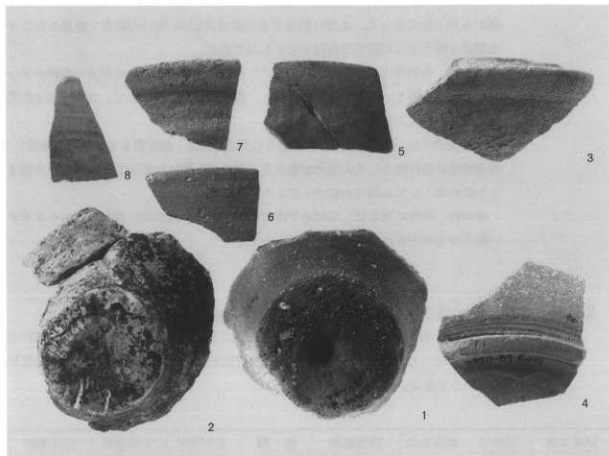


fig.9 遺物包含層出土遺物



押図写真3 遺物包含層出土遺物

第4節 まとめ

月若遺跡第89地点の調査では、2面の遺構面が確認された。第2面では弥生時代後期後半、第1面では古墳時代から中世の各時期の遺物を確認できた。調査地は崖状地形の肩部がわずかに残るのみで遺構の検出は極少であった。今回の調査範囲は旧芦屋川の氾濫原と微高地の境界域と考えられ、調査地は微高地上の集落の縁辺部にあたると推測される。これまでの調査成果からも、集落の中心域は今回の地点よりも西側から北側に展開するものである。

今回の調査地点の遺跡の変遷を追うならば、当該域は弥生時代後期後半段階には、旧芦屋川によって形成された扇状地の縁辺部に位置し、東側に流れる河道に向う崖状地形の肩部から落ち際であった。北側に隣接する月若遺跡第69地点の調査で確認された4箇所の土器群も崖上からの投棄を想起させるものである。

その後、古墳時代から中世段階にかけても、河道による多少の侵食や堆積があったにせよ、崖の落ち際という地形の変化はなく、集落域の縁辺部として、さほどの土地利用はされなかったと考えられる。

近世段階では、河道はさらに東のほうに流れを変え、前段階までの河道は埋没しており、河道跡地は耕作地としての利用が始まる。崖の落ち際には花崗岩による石垣が積まれ、崖上も耕作地としての利用が拡がったようである。

その後、現代に及んで、石垣の下段は阪神大水害の洪水砂に覆われ、さらにその上に厚い盛土で宅地化されて現在に至っている。

第5節 都市計画道路山手幹線街路事業に伴う既往発掘調査

都市計画道路山手幹線街路事業に伴う発掘調査は、第1章で記したとおり神戸市教育委員会が実施して来たが、平成12年度の調査開始から平成18年度までの調査概要は下記のとおりである。

調査年度	遺跡名	調査地点	調査期間	面積	主な時代	主な遺構	主な遺物	遺構面
平成12 (2000)	寺田	127	2000,09,11～ 2001,03,06	1,600㎡	弥生 古墳 奈良	竪穴住居 掘立柱建物 土坑・溝 ピット	弥生土器 須恵器 土師器 鉄器	3面
	寺田	130	2000,12,04～ 2001,03,26	640㎡	弥生 古墳 奈良	竪穴住居 掘立柱建物 土坑・溝 谷	弥生土器 須恵器 土師器 鉄器・石器 白玉	4面
	寺田	132 次年度 継続	2001,02,05～ 2001,03,23	410㎡	弥生 古墳 奈良	竪穴住居 掘立柱建物 土坑・溝	弥生土器 須恵器 土師器	2面 のみ 調査

平成12 (2000)	寺田	133 次年度 継続	2001,02,01～ 2001,03,13	600㎡	古墳～平安	掘立柱建物 土坑・溝 ビット	弥生土器 須恵器 土師器	1面 のみ 調査
	芦屋市文化財調査報告 第43集 「寺田遺跡発掘調査報告書」(2002) 収載							
平成13 (2001)	寺田	132	2001,05,21～ 2001,07,27	720㎡	弥生～鎌倉	掘立柱建物 土坑・溝 ビット・谷	弥生土器 須恵器 土師器	4面
	寺田	133	2001,05,28～ 2001,08,31	1,100㎡	弥生～平安	竪穴住居 掘立柱建物 土坑・溝	弥生土器 須恵器 土師器 石器	4面
	寺田	137	2001,07,18～ 2001,08,09	150㎡	弥生～平安	竪穴住居 土坑 溝	弥生土器 須恵器 土師器 砥石・鉄製品	5面
	寺田	139	2001,09,20～ 2002,02,14	780㎡	縄文～鎌倉	竪穴住居 掘立柱建物 土坑・溝 ビット	弥生土器 須恵器 土師器 滑石製品 砥石・鉄製品	5面
	寺田	141	2001,11,21～ 2002,01,09	210㎡	奈良～室町	掘立柱建物 土坑・溝 井戸	須恵器 土師器 砥石	4面
	寺田	142	2001,11,19～ 2002,02,07	390㎡	弥生～鎌倉	竪穴住居 土坑・溝 貯蔵穴	弥生土器 須恵器 土師器 砥石・鉄製品	3面
	芦屋市文化財調査報告 第45集 「寺田遺跡発掘調査報告書」(2003) 収載							
平成14 (2002)	月若	68	2002,06,03～ 2002,06,14	122㎡	江戸	土坑・溝 ビット	須恵器 土師器 陶器・磁器	1面
	月若	69	2002,06,14～ 2002,07,26	152㎡	弥生～江戸	土坑・溝 ビット 河道	弥生土器 須恵器 土師器 陶器・磁器 土製品 双孔円盤	3面
	月若	70	2002,07,29～ 2002,10,29	540㎡	弥生～鎌倉	掘立柱建物 土坑・溝 ビット 落ち込み	弥生土器 須恵器 土師器	5面
	芦屋市文化財調査報告 第57集 「月若遺跡発掘調査報告書」(2004) 収載							

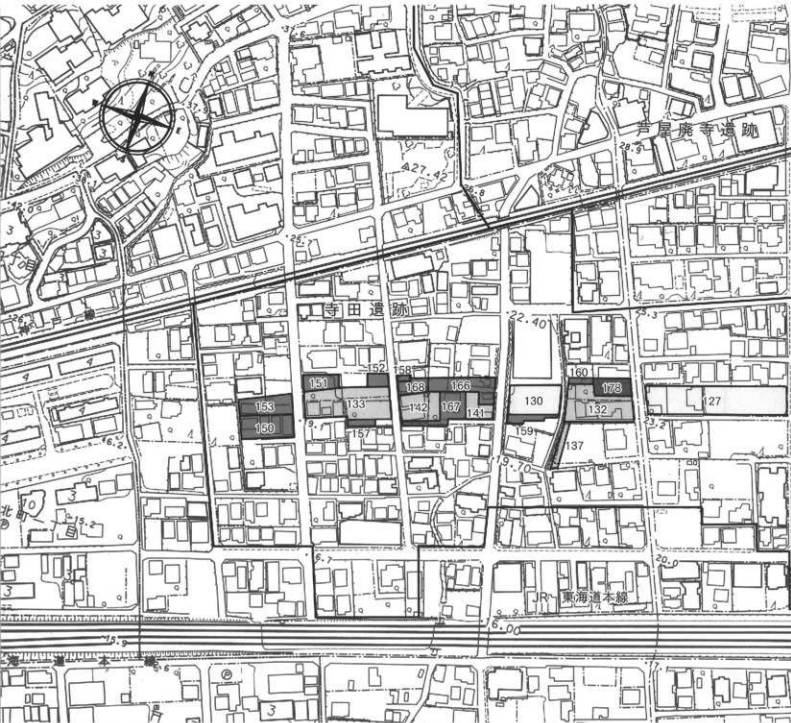


fig.10 山手幹線街路事業関連既往調査地点 (S = 1 : 2,500)

調査年度	遺跡名	調査地点	調査期間	面積	主な時代	主な遺構	主な遺物	遺構面
平成15 (2003)	寺田	150	2003,04,05～ 2003,05,27	447㎡	弥生～鎌倉	水田	須恵器 土師器	2面
	寺田	151	2003,04,18～ 2003,07,14	251㎡	弥生～鎌倉	河道	弥生土器 石器	3面
	寺田	152	2003,04,28～ 2003,09,12	123㎡	弥生～鎌倉	竪穴住居 集石土坑	弥生土器	4面
	寺田	153	2003,11,06～ 2004,02,25	546㎡	弥生～鎌倉	河道	弥生土器 石器・木器	2面
	寺田	157	2003,07,07～ 2003,08,22	45㎡	弥生～鎌倉	掘立柱建物	須恵器 土師器	4面



寺田	158	2003.07.07～ 2003.08.28	25㎡	弥生～鎌倉	土坑 ビット	須恵器 土師器 滑石製紡錘車	2面
寺田	159	2003.07.14～ 2003.10.08	100㎡	弥生～鎌倉	掘立柱建物	弥生土器 須恵器 土師器	4面
寺田	160	2003.07.28～ 2003.11.04	98㎡	弥生～鎌倉	掘立柱建物	弥生土器 須恵器 土師器	4面
寺田	166	2003.12.08～ 2004.03.17	360㎡	弥生～室町	掘立柱建物 井戸	須恵器 土師器 蓮華文軒丸瓦	5面

調査年度	遺跡名	調査地点	調査期間	面 積	主な時代	主な遺構	主な遺物	遺構面
平成15 (2003)	寺 田	167	2003,09,16～ 2004,03,19	452㎡	弥生～近世	掘立柱建物 区画溝・井 戸・貯蔵穴	須恵器 土師器 石鍋・カマド	4面
	寺 田	168	2003,10,08～ 2004,03,24	186㎡	弥生～鎌倉	掘立柱建物 井戸 貯蔵穴	弥生土器 須恵器 土師器・石器	3面
	芦屋市文化財調査報告 第59集 「寺田遺跡発掘調査報告書」(2005) 収載							
平成16 (2004)	葉 平	61	2004,06,17～ 2004,12,10	1,700㎡	縄文 古墳 平安	土器棺 竪穴住居 円墳 横穴式石室	縄文土器 弥生土器 須恵器 土師器・鉄釘	3面
	月 若	79	2004,04,15～ 2004,05,14	105㎡	近世	耕作痕跡	弥生土器 須恵器 土師器	1面
	月 若	81	2004,09,02～ 2004,12,07	359㎡	弥生 飛鳥 中世	掘立柱建物 大溝 土坑	縄文土器 弥生土器 須恵器 土師器 瓦・埴	3面
	寺 田	178	2004,05,21～ 2004,09,01	336㎡	古墳 飛鳥 平安	掘立柱建物 竪穴住居 土坑	弥生土器 須恵器 土師器	4面
	寺 田	181	2004,12,08～ 2005,03,18	349㎡	古墳 飛鳥 平安	掘立柱建物 竪穴住居 鍛冶遺構 溝	弥生土器 須恵器 土師器 瓦器・刀子 輸入陶磁 瓦・鉄鍋	5面
	芦屋市文化財調査報告 第62集 「葉平・月若・寺田遺跡発掘調査報告書」(2006) 収載							
平成17 (2005)	月 若	83	2005,05,30～ 2005,11,10	630㎡	縄文～鎌倉	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝・ピット	縄文土器 弥生土器 須恵器 土師器 瓦・鉄製品	4面
	芦屋市文化財調査報告 第68集 「月若遺跡発掘調査報告書」(2007) 収載							
平成18 (2006)	月 若	89	2006,05,30～ 2006,06,21	120㎡	弥生～鎌倉	溝 河道	弥生土器 須恵器 土師器	2面
	芦屋市文化財調査報告 第69集 「月若遺跡発掘調査報告書」(2008) 収載							

写真図版





第2遺構面全景（東から）



第2遺構面全景（南東から）



第1遺構面全景（南東から）



第1遺構面全景（東から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	つきわかいせきはつくつちようさほうこくしょ だい 89 ちてん							
書 名	月若遺跡発掘調査報告書 第 89 地点							
副 書 名	都市計画道路山手幹線街路事業に伴う発掘調査Ⅶ							
巻 次								
シリーズ名	芦屋市文化財調査報告							
シリーズ番号	第 69 集							
編 著 者 名	斎木 巖							
編 集 機 関	神戸市教育委員会							
所 在 地	〒 650 - 8570 兵庫県神戸市中央区加納町 6 丁目 5 番 1 号 TEL 078 - 322 - 6480							
発行年月日	2008 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド		緯 度 ・ 経 度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
つきわかいせき 月若遺跡 第 89 地点	ひょうごけんあしやし 兵庫県芦屋市 つきわかいせき 月若町 3 番 - 25	28206		34 度 44 分 02 秒	135 度 18 分 01 秒	20060530 ～ 20060621	120 m ²	都市計画 道路山手 幹線街路 事業
	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	集落跡	弥生時代～ 鎌倉時代		溝・河道		弥生土器・土師器・ 須恵器		遺構面を 2 面検出

芦屋市文化財調査報告 第 69 集

月若遺跡発掘調査報告書

第 89 地点

—都市計画道路山手幹線街路事業に伴う発掘調査Ⅶ—

2008.3.31

編 著 神戸市教育委員会
神戸市中央区加納町 6 丁目 5 番 1 号
TEL 078-322-6480

発 行 芦屋市教育委員会
芦屋市稲道町 7 番 6 号
TEL 0797-31-9066

印 刷 株式会社 旭成社
神戸市中央区琴ノ緒町 1 丁目 5 番 9 号
TEL 078-222-5800

